

平成28年度 第1回 江府町総合教育会議 議事録

日時	平成29年(2017年)1月27日(金)午後2時00分～午後4時30分
場所	江府町 情報・防災センター2階 研修室
出席者 (敬称略)	白石祐治江府町長 江府町教育委員会：富田敦司教育長、 富田美智子教育委員、前田恵子教育委員、 三代信行教育委員、賀本幹穂教育委員
意見聴取者	事務局：篠田寛子教育振興課長、生田志保社会教育課長、山本育朗主査

1. 開会 (課長)

2. 町長挨拶

大綱案の内容を見ると、教育全般のことがだいたい書いてある。その中で、これはどうかと思うものも多々あったので、今日の会議でしっかりと話し合いたい。

3. 教育長挨拶

総合教育会議は、町長と教委が一緒になって教育施策を協議し、ベクトルを合わせて進めていくことが期待される。年に何回か協議の場をもって、風通しのいい会にしたい。

4. 協議 (進行：町長)

【江府町教育大綱について】

町長 進め方については、最初は「趣旨」「構成」「課題」までを協議し、その後、個々について協議を行いたい。
まずは、初めの部分について事務局から説明を。

課長 (資料を基に説明) 教育理念は町でうたわれたもの。その理念の下、教委で事業として実施しているものを「構成」として一覧にまとめている。計画にあたっての現状と課題を2ページにわたって整理している。

町長 「計画の策定にあたって」に「江府町総合計画」とあるが、H28からの10年間の「江府町未来計画」を議会で認めてもらった。その中の教育に関わることを具体的にしたものが基本計画であると捉えているが、それでよいか。

委員 よい。

町長 総合計画と書いてあるが、未来計画となっているので修正を。

委員 すり合わせをしないといけないが、大きく変わっているところはないか。

町長 「未来計画」は町政運営の長期的かつ基本的方針。28年度から10年間のうち、29年度から4年分が書かれているとだけいただければよい。

町長 計画の実効性の確保とあり、議会に提出すると書かれている。いつ、どういう

	形で行われているか。
教育長	書面で議会に提出している。
町長	教委の自己評価を出しているのか。
教育長	出している。
事務局	今年度は11月になったが、もう少し早めに出して次のことを考えていきたい。
町長	いつ頃出しているのか。
事務局	9月ぐらいには出した方がよい。
町長	本町教育を取り巻く現状と課題について、委員から質問、意見はないか。
委員	(なし)
町長	子どもの数が少なくなり、人間関係づくりのために西ノ島等との交流をしているということが書かれているが、A i T i eや修道大との交流はどうか。
委員	修道大は夏休みなので難しいように思う。
教育長	中学校は修学旅行でA i T i eとの交流を行った。江府町のことを紹介してほしいとのことで、紹介する交流を行った。 2年生は修学旅行の前段としてA i T i eとの交流を計画したが、日程が合わずできなかった。 江府町を考えるフォーラムでも、A i T i eの人に江府町について話をしてもらった。
町長	夏休みの子ども教室での交流は難しいか。
委員	町民さえもあまり知らない。一部の方だけと交流しているという意見もある。地域協力隊についても知っている人は知っているという状況。ましてや、児童・生徒となると。 中学校のフォーラムでA i T i eに江府町の素晴らしさを話してもらったのはよかった。
町長	国外との交流はあえて入れていないのかなという気がしたが、どうか。
委員	A L Tが一人いて、保育園から中学校までそれぞれに関わっており、英語が耳から入っている。そういうことは大事にしたい。2～3人ももらえとなおよい。
委員	保育園に0歳で入る子もいれば、3歳で入る子もいて、保小中と15歳までず

	つと同じ人間関係の中で育ち、いい面もあればマイナス面もあるように思う。そのあたりも学校教育の負担となることもあるかもしれない。
委員	生涯学習はよいか。 スクールソーシャルワーク事業の充実とあるが、支援の必要な児童生徒の家庭に働きかけているということであるが、期間限定か。
事務局	限定はないが、補助金がなくなるということはあるかもしれない。H29年度はある。
町長	個々の施策に移る。 幼児教育・学校教育の確かな学力の育成について、質問や意見はないか。
委員	前回の大纲を作成した過程で委員は一通り見ているので、町長から質問してもらった方がよい。
町長	6 ページ「本町の課題に即した授業改善」の課題というのはどういった点を捉えているか。
事務局	本町の課題としては、表現力、書く力、説明する力と、自己肯定感と捉えている。それについて自分の考えを持てること、それを伝えることができるようにすること、それが将来的の人間関係づくりにつながっていくと考えている。授業の中では、話合う活動を取り入れたり、自分の思いを書き表したりする活動、説明しようとする気持ちを育てたりすることに取り組んでいる。新指導要領中でも今後の社会を生きる力として必要とされている。
教育長	町報にも学力調査の結果分析を載せている。記述式の解答正答率や語彙、自己肯定感等について課題意識をもって授業改善を行っている。
町長	自己肯定感を高めるというのは、具体的には褒めることか。
教育長	行事を通した達成感もある。
事務局	できない子に焦点を当てた授業づくりも行っている。TT等で相談に乗りやすい体制も作っている。 自分が周りに認められるということも大事なので、人間関係づくりも大事にしていきたい。そのために一人一人が周りの人を思いやる、きまりを守ることも徹底していきたい。しかし、思うようには定着していない。
町長	保育園からの取組が必要か。
事務局	極端に言えば、産まれたときから。人を信用できないと人にやさしくできないと思うので、人を信じることをどの段階で身につけるのか。集団生活の中で経験を積んで身につけていくのは、保育園や学校だろうと思う。

委員	保育園の今の子の絵は昔と比べて発想が豊か。それぞれの子の個性が出てくるような作品がある。自分が積極的に制作に関わって、それを保育士がほめて、「できる」と感じる事が次につながっているのだろう。
町長	「保育園・小学校・中学校、それぞれに得意とする指導法を持っています。」と書かれているが、どのような指導法か。
事務局	中学校は生徒達が主体的に活動する要素が強くなるので、そのような働きかけをする。教科担任制でもあるので、それぞれの専門性を活かした指導が特徴。小学校は、担任が中心となって指導する。子ども達の様子を担当がしっかりと見ながら、級外等の客観的な目も併せて見ていく。高学年になると、学校のリーダーとしての自覚も高めるような指導をする。また、学習内容は身近なことが多いので、できることは体験的に取り組むことが多く、校外学習なども多い。
町長	公共交通機関の会で、町営バスを積極的に使ってということもあった。
事務局	町のマイクロバスが使えないときに、利用したこともあった。
町長	7 ページに I C T の「機器を効果的に使いこなす技能」とあるが、どの程度を想定しているのか。
事務局	機器を充実してもらっているので、学習に興味を持たせるような画像や動画の提示のほか、表現力育成の観点から、ノートを拡大表示し、それを使って説明するなどにも生かしている。子ども達も積極的に使っている。教員の技量の差があるので、システムエンジニア等の支援員も必要との声もあるが、I C T 機器を効果的に使用する上で、教員が身につけていかなければならない新たな技能となっている。
町長	社会に出たときに「検索する技術」が役に立つと思うが、どうか。
事務局	子どもたちにとっては調べることも I C T の効果的な活用となるが、今は表現力を育てるということに活用している。
教育長	中学校では修学旅行の前に自分達の行き先について調べたりすることも行っている。
町長	子どもによるレベルの差はあるか。
事務局	経験の差はかなりある。
委員	レベルの差もそうだが、向かう意識の差も大きいと思う。今は P C ですぐに調べたいことが分かるが、果たしてそれでよいのかと提言している人もあった。答えに行きつくまでどういう方法で調べればよいかといった学び方を学ぶことが大事なのではないか。

委員	楽をすればよいというものではない。自分もそうだが、果たしてそれを小さい子に教えることがよいのかどうか。使う際の最低限のルール等を小さい時からきちんと教えていくことが大事なのではないか。
教育長	情報がすべて正しいとも限らない。
町長	本も読まなくなったと言われている。 まとまった形の体系だったものから調べてくるということをしなないように感じる。
委員	中学校の先生が学年だよりで書いておられたが、本は読むが簡単なものばかりで、読解力が育っていない。数学等にも読解力は必要で、国語の教科書を読むのが一番よいとのことだった。
委員	学年別に段階を追って使う分にはよいが、今、赤ちゃんにスマホを見せると泣き止んだ等の話もあり、誰でも楽な方に行きたがるが、段階にあっている方がよい。
事務局	保育園は、「2歳までは発達に影響する」と言われだしてからテレビを置いていない。「なぜ」「知りたい」という子ども達の言葉から、興味につながる方法で個別の関わりができるようにしている。未満児は個別に関わり、3才児からはチームでテーマをもって調べられるようにしている。町立図書館で調べたりPCで調べたりして、最終的には発表するようにし、表現力につながるようにしている。
教育長	学校図書館は、図書センターと情報センターの機能を持ち合わせている。調べたいことを図書で調べたり、図書がなければ県立図書館から取り寄せたりしている。
町長	8ページ「学習支援員」について書かれているが、これはいつから実施しているか。
事務局	小学校はH22年度から、中学校は今年度から。
教育長	中学校は少人数学級にしてもらっていて、今年度から支援員を入れてもらった。
町長	9ページ「道徳の教科化」とあるが、道徳は教科ではないのか。
教育長	道徳は教科ではない。小H30～中H31～特別の教科「道徳」となり、評価も行う。
町長	なぜこうなったのか。
教育長	社会の変化による。道徳で評価するのはどうかという声もある。

委員	教職員の指導力が問われる。
教育長	平成29年に教科書検定がある。
事務局	今あるのは副読本で、有料で購入している。教科書になれば無償となる。
委員	評価の観点も考えているだろうか。
教育長	H29に文科が示して、伝達されるだろう。
委員	評価はたいへんだろう。見えない部分もある。
事務局	これまでも、さまざまな人の価値観にふれながら考えていくのが道徳で、具体的な生活の中の行動につなげていくのが学級活動。求める価値に合った行動面も見ていくことになるのかもしれない。勉強不足で分からない。
委員	研修会でいじめになるかどうかという話があった。子ども達が「いじめじゃない」と思っているちょっとしたことでも、それがいじめの始まりになるということも教えていくことも道徳なのかもしれない。
町長	10ページに「読書の推進」があるが、子どもたちはどんな本を読んでいるのか、また、何をきっかけに読み始めるのか。
事務局	読書習慣のあるなしによっても読む本は違うように思う。保育園ではほぼ毎日読み聞かせをしている。小学校でも週1回、中学校でも月1回、ボランティアさんに読み聞かせをしてもらっている。国語の中でも読書に向かう単元などもある。 小学校では親子読書の取組を行っている。親子で読み聞かせをしたり親子で読んだりして、感想を書いてファイルに閉じ、提出している。 小中共に朝読書の取り組みも行っている。
教育長	鳥取県は朝読書の実施率が全国一である。
委員	町長、教育長は親子読書を経験してきた世代だろう。 どうしても本になじめない子もいる。
町長	買ってもらうと読まない。自分で探すと読む。義務にされると読まないのだろう。習慣づけるということは必要だろう。興味を持ち始めると読むのだろう。
教育長	前片山知事が、「暇なときは子どもを図書館に連れて行って行っていたので、連れて行った子はよく読む。忙しくなって行けなくなったら連れて行けなかった子は読まない。」と言っていた。
事務局	中学校に買う本で、中学生が読む内容ではない本があり、誰が選ぶのかと思っ

	たことがあった。ドラマの原作本ということでリクエストがあったのかもしれない。
委員	町立図書館の本についても、選書は誰がしているのか。
事務局	図書司書が行っている。
事務局	書店から持ってきてもらって、見繕いをすることもある。
教育長	29年度に有識者を招いて公共図書館のあり方について検討を行う予定。選書についても教えてもらいたい。
町長	11ページに「食育の要となる栄養教諭」とあるが、今はいるのか。
教育長	現在、育休中。県が配置するもので、今は栄養職員がいる。
町長	12ページに「体力運動能力を…」とあるが、子ども達の状況はどうか。
事務局	江府町の児童・生徒は、理由はわからないが、握力が高く、ボール投げの記録もよい。関係はあるのかもしれない。持久力も全国と比べて高い。ただ、柔軟性が課題で、体育の学習の中で柔軟性を高める運動を取り入れたりしている。
町長	食べ物の影響はないのか。
事務局	関連付けて分析をしたことはない。県全体でも柔軟性を課題で、毎月17日を柔軟の日として全県的な取組を進めている。
町長	13ページの「子育て支援センターの充実」について、具体的な方策やニーズはどうか。
事務局	ほとんどが保育所に入所するので、利用者の低年齢化が進み、個別の関わりが中心となる。0～2歳の数人の家庭について、離乳食をどうするかといったことや、周りに子どもがいないので交流が持てない等相談ができるよう、いずれ入る保育所内に集まれる場所をつくって安心してもらえるようにしている。
委員	「親と子の育ちの場」と書いてあるが、6カ月ぐらいから入れ、保育士にみんな任せしている状況。
町長	家庭内保育の議論がある。県では預けない家庭への支援をしようとしている。
委員	江府町の現状としては、ほとんどの親が仕事をもっている。家で見たいから仕事をしないという人はほとんどいないのではないか。
事務局	自分で見たいという人もゼロではない。見たくても見られないということもある。

町長	家庭内保育に支援をとということの背景には、待機児童の問題といった行政的な事情もある。
事務局	お金がもらえるのであれば、家で見たいという人もあるかもしれない。
教育長	実態については、調査をしてみないとわからない。仕事先での育休の整備状況や自分のキャリア等に関わるということもあるだろう。
町長	15ページの「ICT教育」は何を目指すのか。
事務局	ICTを活用していかに効果的な指導を行っていくのか。学習への興味関心を持たせる、表現力につなげていくことをねらっている。 子ども達の機器活用の面は「情報教育」ということで、発達段階や学習内容に応じてPCを活用したり、PCだけでなく活字から情報を入手したり、それを使って情報を発信する等に取り組んでいる。その中で、検索をするなどの経験をし、小学校高学年ではPCでの文書入力なども体験させている。
町長	「どういうことができるか」といったことも教えるのか。
事務局	パワーポイント等は中学校で行っている。
町長	パワーポイントは作るのに一生懸命になってしまって、肝心の中身がおろそかになってしまっているという声もあり、そこに載せていく中身を考える力が大事。
事務局	発信ということについては、国語をはじめ様々な教科において、自分でまとめて紙に表現したり、ポスターセッションを行ったりするなどを行っている。パソコンの操作についてはPCルームを使って体験的に学んでいる。ただ、慣れもあるが非常に時間がかかる。
町長	伝えたいことをすべて書き込むのではなく、インパクトがあって何が言いたいか伝わる表現を創り出せる力がこれからは大事なのではないかと思う。
教育長	全教科全領域で表現力やICT操作の技術的な面について指導を行っている。一方で教員再度ではICTを使って分かりやすい授業をつくっていくよう努めている。
町長	学校安全対策、「いじめや暴力など生徒指導上の問題…」、あるいは「情報化社会の中でケータイやインターネットなどによる被害…」とあるが、あるのか。
事務局	いじめについては、規範意識や生活習慣、当たり前のことが当たり前にできるということが身につかないまま大きくなってしまっている部分もある。はっきりと「いじめ」として数値として上がってはいないが、何をいじめと捉えるかの教職員の見方を変えていかなければならないと考えている。小中学校では、

	<p>学期に1回ずつアンケートを行って教育相談などを行っている。今のところ重大事案になるようないじめは確認していない。</p> <p>生徒が自分のことをツイッターに載せていて、ネットパトロールで発見され、連絡があった。学校に事実確認をしてもらい、個人情報扱いについて指導を、個別指導、全校指導をしてもらった。小中学校で講師に来てもらって情報モラルの講習を行っているが、危機意識の喚起が必要という状況。</p>
教育長	<p>すべてダメという時代ではないので、うまく付き合っていくことが大事だと思う。</p> <p>いじめについては、毎月の月例報告はゼロで上がっている。ただ、中学校の人権作文で小学校でいじめられた経験を書く生徒もおり、文科でもゼロはありえないと言っている。教員のいじめを見抜く目を養っていかなければならない。</p>
委員	いじめの定義は大きく変わってきている。
委員	P T Aの指導者研修会でラインの会社から指導者が来て話を聞いた。同じことを書いても全員が同じように捉えるわけではなく、よく感じる人もいれば悪く感じる人もいる。文字やスタンプも相手がどういうふうに取り取るかわからないということを自覚しておくべき。
町長	あるのを肯定して、上手に付き合うことを教えた方がいいかもしれない。いじめについては大きな事態になる前に早めに対応することが大事。
町長	防災教育の充実について何かあれば。
教育長	<p>避難訓練は毎年行っている。自分の身は自分で守るという指導もしている。</p> <p>昨年度は、土曜学習で、消防署、消防団の協力を得て防災教育を行った。一昨年は、防災キャンプも行った。</p>
町長	17・18ページの「ふるさと教育」について、江府町の自然を生かし、カメラマンになろうとか、観光ガイドになろうとか、スキーやスノーボードのインストラクターになろうといったようなことは考えないのだろうか。
委員	家庭の畜産を受け継ぐ気持ちを持って進学している子もいる。
事務局	ふるさと教育で、身近な自然から、環境問題、福祉や人権に目を向けてはいるが、それとキャリア教育というのにつながっていないのが現状。将来、江府町に帰って江府町に住みたいという子はあるが、具体的な職業というところにつながっている例は聞いていない。
町長	資源に目を向けて、こういう職業やビジネスがあるよということを教えておくとよいかもしれない。
教育長	学力調査の質問紙によると、将来の夢がある児童生徒は少ない。

委員	議会の中で、子ども達がまちづくりについて考えていた。町長が真摯に子ども達に向き合ってもらったことはありがたいことだった。子ども達もうれしかったと思う。
委員	以前は4校あって、それぞれのふるさと教育ができていた。神楽や苦峪隧道等、ふるさとで伝えたいものがいっぱいあるように思うが、目が向きにくくなってしまっているように思う。
町長	先生が目を向けるように仕向けていかなければならないのか。
委員	大人かどのようにかかわっていけるかが課題。
町長	放課後子ども教室の性格付けはどうなっているか。少子化を受けて異年齢でまじわるためにやっているのか、親が働いていてなかなか見られないからやっているのか。
事務局	調査によると、親としては「安心安全」の場を求めている。ただ、国の流れとしては一体型を推進していて、江府町の場合はそのような取組となっている。
委員	江府町の現状として、放課後、家に帰ると子ども同士の交流ができない。親も安心安全に見てもらいたいという思いがあり、それを十分に果たしている。
町長	小学生のみか。
事務局	小学生のみ。
教育長	長期休業中は8割程度。フリーパスもあり、遊びに行くこともできるが、子ども教室に来ている子が多い。
町長	大雪の時、子ども教室は中止となったが、親としては見てもらいたいという思いもあったかもしれない。
事務局	早帰りとなったときは、どうしても迎えに来られない人もあり、防災・情報センターで預かって見ていた。
町長	22ページに「知の循環型社会」とあるが、明德学園と小中学生との交流もこれにつながるか。
事務局	公民館学習で講師を読んで話を聞く、それをなかなか出てこられない人に地元で話をする、あるいは、中学生が明德学園の人にパソコンの使い方を教える等も循環につながる。
町長	24ページに「個人の知恵を活かした特色のある郷土学習」とあるが、奥大山カフェ等がそうか。

事務局	全戸に周知をしている。サークルがサークル止まりにならないように。勉強された内容の掲示等もやってもらいたいと思っている。
町長	他には何かないか。
委員	人口が少なくなり、自分から動いて活動する人が限られ、なかなか広がっていない。
委員	それぞれのやっていることがつながっていくとよい。
教育長	大綱については、事務局で見直して町長に見てもらい、町長の許可を得て大綱とする。 総合会議の回数について、もう少し増やしたい。
町長	評価案をつくった段階でもう一度行おう。
教育長	あとは予算前に実施したい。8月と1月ということで進めたい。
委員	以前は江教振で町長と話をする機会もあった。教職員全員は難しいが。
町長	教育管理職会のメンバーだけでも懇親会を実施する。

5. 閉会（課長）